
致命的な日常 著者

黒猫大和

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

致命的な日常 著者

【Nコード】

N0073D

【作者名】

黒猫大和

【あらすじ】

これは、俺の内心です。読んでも徳はありません。が、好奇心がわいたのなら、読んでみて下さい。絶望の片鱗くらいは味わえますよ。

どうしようもない事が多い。

大抵の人は、それを気付かないままに妥協して生きている。

でも、気付いてしまった以上は、それと向き合い、苦しみながら生きていく羽目になる。結果、必要以上に精神をすり減らす。

致命的だ。

俺は、その結果として精神科に通い続ける事となった。鬱病か何かの一種になってしまったらしい。

俺には自動車を運転するような気力もない。何をするにも、やる気が起きない。やったとしても、続かない。

運転中なら事故を起こしてまう。

それも致命的だ。

どうしてこんな事になったのか。

飲食店で数ヶ月働いた結果だ。

いや、それ以前からリストカットやら自殺願望やらはあったわけだが、直接の引き金になったのは、やはりその労働だろう。

誰もが思っている以上に、飲食店での厨房勤務というのは過酷な

のだ。

特に、俺みたいなヤワな人間にとって。

それは致命的だ。

別に、今更そんな事はどうでもいい。些末事だ。

文章が正しく変換されなくて苛立つのと同程度に、どうでも良い。

今が問題だ。

俺はこんな状態にありながら、他人の悩みを聞いたりしている。

父親は賛同し賞賛し。

母親は反対し警告し。

板挟み。と言うわけではない。どのみち、話はいつも聞いているのだから。

だから、結局は、俺にはどうしようもない。

まさしく致命的だ。

俺はどうするべきか、なんて、一切無関係なのだ。

俺はクラゲか何かみたいなのに、いや、水に浮いたゴミ同然に流されるしかないのだから。

本当に致命的だ。

しかも、俺にはその現状を打開しようという気力もない。そんな気力があれば、他の事に使っている。

こつやって文章を書く事とか、下手の横好きで絵を描く事とか。

恋愛は諦めている。

19年間、彼女など出来た事はない。

恋愛には縁がないのだ。致命的に。

それも、もう今となっては単なる些末事だ。そのくらい諦観している。

さて、長々と語ったけれど、そろそろ終わりにしよう。

何が言いたいかと言うと。

これだけ致命的な人生歩みながら、意外にも人間は死なない、と言う事だ。

このしづとさ、致命的だ。

ほら、致命的なまでに死なないのだから、どうせ死ねはしない。

なら、漂うしかない。

それとも。

貴方は、泳げますか？

致命的な毒の海を。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0073d/>

致命的な日常 著者

2010年10月21日22時42分発行